

第二期大牟田市子ども・子育て支援事業計画（案）に対する市民意見募集結果

※意見の内容については、要約しています。

No.	寄せられた意見	件数	回答	回答区分
1	<p>子育て中の親の精神的な支援について</p> <p>核家族で共稼ぎの家庭においては、仕事と育児に追われ、親（特に母親）のリフレッシュの時間が取りづらくなっています。有給休暇は子どもの病気や行事のために確保しておく必要があります。休日に育児や家事から離れてリフレッシュの時間が半日でも確保できるなら、精神的な安定も幾分か回復し、子育てや家事にも健全で意欲的になると思われます。「リフレッシュの時間確保」は、「ファミリー・サポートセンター事業」がありますが、この様な事業等の更なる充実と利用促進が必要だと思います。</p>	1	<p>第4章「1 地域における多様な子育て支援」の「（1）地域における子育て支援サービスの充実」の今後の主な取組みに記載しているとおり、子育て家庭への支援として、保護者のリフレッシュ等の視点も踏まえながら、ファミリー・サポート・センター事業等の利用促進が図られるよう、取り組んでまいります。また、子育て中の保護者の精神的な支援としては、はぐはぐおおむた等における専門職による相談体制の整備などを行っており、こちらも活用が図られるよう周知啓発を行ってまいります。なお、いただきましたご意見は参考とさせていただきます。</p>	参考
2	<p>子どもに自然体験と人間関係（遊び）体験の場づくりと支援を</p> <p>子どもが自然と交えて夢中になって遊ぶことや近所の異年齢の子ども同士で遊んでいる姿が極めて少なくなっています。大人も子どももスマホの虜になり多くの時間を使っています。このことは子どもの健全な成長に極めて大きな偏りをきたしていると思います。地域・学校・家庭が連携して、子どもの自然体験、人間関係（遊び）体験の場づくりと支援を強化する必要があります。隣近所での異年齢遊びは疎遠になってきた隣近所の人間関係の回復にとっても重要です。</p>	2	<p>自然体験や人間関係（遊び）などの体験を通じて、子どもが健全に成長していくことは重要だと考えております。現在、社会教育（青少年教育）では、「自然体験」や「子どもの居場所の支援」などを実施しています。今後も子どもの健やかな成長につながるよう、いただきましたご意見は参考とさせていただきます。</p>	参考
3	<p>回収率45.1%という低さに関心度の低さを感じた。折角にアンケートなので任意抽出の2,000人のやり方でいいのか今後の課題として検討すべきではないだろうか？</p>	1	<p>アンケート調査の配布数については、第一期のアンケート調査と同様に統計的に有効な調査になるよう設定し、実施いたしました。</p> <p>今後も市民の意向を把握する際には、その目的や対象などを踏まえ、調査の回収率の向上に努めるとともに適切な手段や対象数となるよう検討を行ってまいります。</p>	意見・要望等
4	<p>出生率・就業率共に県や国の平均を上回っていることをもっとシティプロモーションに活かす。</p>	1	<p>出生率や就業率はもとより、豊かな自然や暮らしやすい生活環境、高齢者を支える優しさなど、今後も様々な機会を捉え、本市が持つ魅力を発信・アピールし、シティプロモーションに活かしてまいります。</p>	意見・要望等

No.	寄せられた意見	件数	回答	回答区分
5	<p>病気の際の対応でアンケート回答者の保護者は病児病後保育を望まない率が高い。ならば、子どもが病気の時くらい、安心して在宅勤務ができるよう雇用主へのアクションも行政としてやってほしい。</p>	1	<p>病児・病後児保育につきましては、就労している保護者の子育て支援の取組みの1つとして実施するものでございます。仕事と家庭の両立を促進していくために、引続き国、県や関係機関・団体と連携し、今後様々な事業を実施していく中で、子どもや子育て家庭の現状や子育て支援事業等についての情報発信を行ってまいります。</p>	意見・要望等
6	<p>目標値に達していない項目は、「子育てしやすいまち 大牟田」をあげる市として、早急な対応が望まれる。子育てに不安、子育てに負担を感じる保護者が増加している現実は子どもの虐待につながるよう課の連携に取り組むことも検討して頂きたい。</p>	1	<p>第7章「1 計画の推進体制」に記載しているとおり、「子育てしやすいまち 大牟田」の実現に向けて、庁内外の様々な関係機関及び団体等と連携して、横断的に施策及び事業に取り組みます。いただきましたご意見は参考とさせていただきます。</p>	参考
7	<p>周知、啓発の手段がペーパーによる具体策しか書いてない。若い親世代に伝わるようにするにはSNSでの発信への併用を。</p>	2	<p>第4章「1 地域における多様な子育て支援」の「(1) 地域における子育て支援サービスの充実」の今後の主な取組みに記載しているとおり、必要な人に必要な情報を届けるために、広報紙・市のHP等の活用に加えて、令和元年12月から母子健康手帳アプリを導入しております。今後も、SNS等を活用したよりきめ細かな情報発信を行ってまいります。いただきましたご意見は参考とさせていただきます。</p>	参考
8	<p>障害がある～障害のあるご本人に対することのほかに周囲が障害を理解するための取り組みも必要ではないだろうか。</p>	1	<p>障害への理解を広げていくための取組みとして、出前講座やセミナーの開催のほか、機会を捉えたパンフレットの配布や、FMたんと及び広報おおむた等による広報啓発を実施しています。今後も市民に対して障害に関する理解が広がるよう啓発に努めてまいります。いただきましたご意見は参考とさせていただきます。</p>	参考
9	<p>学童保育所に入所できない待機児童が発生しているとある。本市では保育園の待機児童はゼロではあるが小学校に入学し低学年の間、フルタイムで仕事をする保護者にとって放課後のことや一人で留守番させることがとても不安である。現在、2つの校区は未整備とあるが子どもは地域で育つ環境がいいので5年後に37人定員増しの計画でなく、子どもの安全のためにも整備計画を前倒ししてほしい。アンケートだけでなく保護者の意見を毎年ヒアリングしてもいいのではないか。</p>	1	<p>放課後児童健全育成事業（学童保育所・学童クラブ）については、子ども・子育て会議での意見や利用者・事業者の意見等を踏まえて、実施しているところであります。未整備校区への対応や待機児童対策については、ご意見を参考とさせていただきます。なお、学童保育所等の利用者については、毎年度、アンケートを実施しており、その中で自由記載欄を設け、ご意見をいただき質の向上に努めているところであります。</p>	参考

No.	寄せられた意見	件数	回答	回答区分
10	<p>病児病後児保育は利用量が見込まれているのに29年度から休止。予算が議決された場合は事業再開とあるが議決されない理由は何か？子育て世代の移住者を呼びこもうという取り組みと反すると思う。身内がないよそ者夫婦や、晩婚化で後期高齢者の祖父母に預けることもままならない時代になる。早期再開に努めてほしい。</p>	1	<p>事業の再開のためには予算を伴い、市議会の議決が必要となりますことから、計画（案）にはそのような表現としておりました。なお、令和元年12月市議会定例会において補正予算の議決が得られましたので、令和2年1月から、病児・病後児保育事業として事業を実施しているところです。</p>	意見・要望等
11	<p>大牟田市子ども・子育て会議。会議の構成員に市民も含まれ開かれた会議であることを想像するが、一言も意見を言わない会議運営はしないで欲しい。報酬として貴重な税金が使われているので参加者の意識も高めて、進行にも努めてほしい。</p>	1	<p>大牟田市子ども・子育て会議においては、市民の方々や学識経験者、地域の子育て支援に関係する方々に活発に議論いただいております。いただきましたご意見は参考とさせていただきます。</p>	参考
12	<p>親子で安心して集える場所。大牟田は親子で集う場所が少なく、小規模で集える居場所はあるけど、年齢制限があったり、周りを気にして静かに遊ばないといけない環境や雨の日でも遊べる場所がないという意見があります。子ども達が自由に元気いっぱい遊べて、雨が降っても影響されない居場所の必要性を強く感じます。 例)：●久留米 カタチの森（シティプラザ） ●長崎 こどもジオパーク（がまだすドーム） みたいに年齢関係なく集えるフリースペースや子育て支援施設が文化会館や動物園など公共施設にあればいいなと思います。</p>	2	<p>本市では、親子で集える環境として、「えるる」での「つどいの広場」や地区公民館等があります。また、子どもやその保護者を対象とした講座やイベントの開催も実施しているところです。いただきましたご意見は参考とさせていただきます。</p>	参考
13	<p>夏休みのみに利用できる学童保育所の設置を要望します。 夏休みにのみに利用が必要な保護者が夏休みのみの利用は不可能なので、4月から利用しているという現状があります。</p>	1	<p>本市では、夏休みのみ利用できる（開所している）学童保育所等はありません。ただし、利用できる施設は限られてはいますが、既存の施設で夏休み期間に空きがある（見込める）学童保育所・学童クラブについて広報紙等で周知し、利用していただいているところです。いただきましたご意見は参考とさせていただきます。</p>	参考
14	<p>乳幼児用のおむつ用廃棄用の無料のゴミ袋を市で配布してもらおうよう要望します。荒尾市では施行されています。</p>	1	<p>本市では、有料指定ゴミ袋制度を導入した平成18年2月から、子育て支援の取り組みの一環として、市内に住所を有する乳児の保護者等に対して、子ども医療証の申請等の際に、出生時のお祝いとして家庭用有料指定ゴミ袋を一括して50枚お渡しし、ご活用いただいているところです。</p>	意見・要望等